

菊地 謙太 議員

(一問一答方式)



- ①長浜港内港埋立事業の必要性と定期的な情報公開について
- ②ALT(外国語指導助手)配置事業の有効性と今後の在り方について
- ③飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助金の拡充について

長浜港内港埋立事業の必要性と定期的な情報公開について

問 定期的な最新情報の公開が市民の安心につながり、行政への信頼にもつながると考える。少なくとも半年に一度、本事業の進捗等を定期的に公開する仕組みを設ける必要があると考えるが、市の考えを伺いたい。

答 本市としても、市民の皆様の安心と行政への信頼を築くために、継続的かつ透明性の高い情報発信は極めて重要であると考えています。令和7年12月議会での答弁以降、できる限り市公式ホームページでの資料公開を行ってききましたが、今後はこれに加え、大きな進展がない時期であっても定期的な情報発信のさらなる充実に努めていきます。事業の大きな節目だけでなく、定期的に進捗状況を丁寧にお示しすることで、市民の皆様の理解と共感を得ながら次世代へ確実に引き継げる事業として進めていきます。

なお、この事業に関しては、今後10年、20年とこの地域を支えていく若い世代の積極的な参加を仰いでいく必要があるため、長浜地域の若手経営者をはじめとする地域の次代の担い手から成る新たな協議の場を立ち上げ、地域の活性化や将来への展望について意見交換を開始したところです。

ALTの取組と成果について

問 大洲市では令和6年度からALTを従来の6名から10名へと増員しているが、この増員により、具体的にどのような授業や活動を行っているのか、その取り組み事例について伺いたい。

答 令和6年度にALTを10人へ増員したことに

より、ALT1人が担当する学校を、ベースとなる中学校1校及び小学校1校とすることができ、十分な授業時数を確保できる状態となっています。6人体制のときは1週間のうち小学校に1日、中学校に2日派遣していましたが、増員後は小学校に2日、中学校に3日派遣することができるようになりました。加えて、特に児童生徒数の多い大洲北中学校と大洲南中学校には毎日、喜多小学校には4日派遣しています。

より多くのALTを配置することで、子どもたちにとって英語活動の幅が増えるだけでなく、ネイティブの発音に触れる機会が増えています。学校現場からは、正しい発音方法を知ることによって脳が英語の音を正確にキャッチできるようになっているとの声や、発音がよくなっているとの声を聞いています。

そして、ALTの増員に伴い、認定こども園、保育所及び幼稚園へ月1回程度の派遣が可能となったことから、歌やゲームを通じて楽しみながら生の英語に親しむ機会の提供を行っており、ALTとの触れ合いについて家庭での会話が増え、英語を勉強ではなく楽しいコミュニケーションとして体験できる機会が増えています。

飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助金の予算拡充と財源確保について

問 本補助金の予算は今年度減少されているが、予算切れによる補助金の受付終了とならないよう、寄付を含めた財源の確保について今後どのように取り組むつもりか伺いたい。

答 当補助金の予算総額の拡充については、今後ますます厳しさを増す財政状況の中にあっても、現場で尽力をされているボランティアの皆様の切実な声や活動実態を十分に踏まえながら、状況に応じて補正予算等での対応も視野に入れながら、財源確保と併せて効果的な支援の在り方について調査研究を進めていきたいと考えています。

また、この財源確保の柱となるガバメントクラウドファンディングについては、特定の層にとどまらず、より幅広い層の皆様から安定した支援をいただけるようにSNSの活用やPR活動を一層強化し、本市の取組への共感の輪を広げ、安定的な財源の確保に取り組んでいきます。